

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

戦後70年 広島・長崎派遣中学生リレー講座 「未来を生きる子どもたちへ」

戦後70年平和事業の一環として、これまでに広島や長崎に派遣され、現在では社会人・大学生・高校生となった当時の派遣中学生からの提案により、全ての市立小学校で小学6年生向けに平和についての講座を実施しました。

◆ リレー講座の概要（参考：平成27年2月27日校長会提出資料）

戦後70年平和事業

今年は戦後70年を迎えます。戦争や原爆を体験された方が少なくなるなか、今後は、戦争や原爆を体験していない世代が、この悲惨な体験を語り継ぎ、平和について考えていかなければなりません。

市では、戦後60年をきっかけとして、市内の中学生を広島や長崎に派遣し、原爆や戦争の悲惨さを学んでもらっています。

以下の提案は、戦後70年の平和事業の一環として、これまでに広島や長崎に派遣された子どもたちを中心に、企画しているものです。

是非、多くの小学校で、歴代の派遣中学生による平和をテーマにした授業を実施していただきたく、ご検討をよろしくお願い申し上げます。

○ タイトル（仮）

未来を生きる子どもたちへ「リレー講座」

○ 時期

平成27年6月中～平成28年3月まで

※市内全校、6年生全クラスでの実施を目指しています。

○ 具体的な内容

これまでに広島や長崎に派遣された子どもたち（現在は、高校生・大学生等）が、原則として、母校の市内小学校を訪問し、平和をテーマにした授業（45分間・1コマ）を、6年生児童に実施する。

○ 授業内容

授業テーマ「平和」

20分間 これまで広島や長崎に派遣された子どもたちによる説明
(授業)

15分間 グループワーク

10分間 グループからの発表

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

《授業の流れ》

| 時間 | 授業内容 |
|--------|---|
| (5分間) | 講師・アシスタントの自己紹介 <ul style="list-style-type: none">講師1名／クラスアシスタント／1～2名 |
| (20分間) | 授業 <p>講師が授業をし、アシスタントがパワーポイントの操作などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none">私の派遣体験について第2次世界大戦・原子爆弾について原爆詩の朗読身近な平和について |
| (10分間) | グループワーク <p>テーマ：平和な世の中にするために今日から自分たちが できること</p> <p>各クラスの班編成の中で、2班に1人程度、講師やアシスタントが1人ついてグループワークを進行</p> <ul style="list-style-type: none">平和の木の葉っぱを配布グループごとに「平和」について考えてもらい、1人ひとり葉っぱにメッセージを書いてもらう。 |
| (10分間) | グループごとの発表 <ul style="list-style-type: none">葉っぱに書いたメッセージを、各グループ何人か発表してもらう。 |
| 授業終了 | 講師・アシスタントからのお礼の挨拶 <ul style="list-style-type: none">メッセージを書いた葉っぱを回収 |

第2部 我孫子市の平和事業

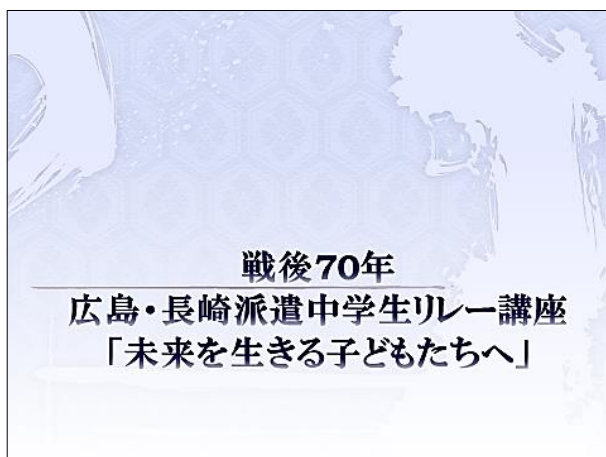
2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

◆ 授業の原稿・スライド

講師は、それぞれの派遣体験を振り返りながら、後輩たちに伝えたいことをまとめ、スライドを作成しました。

授業ではスライドを使って原爆の被害等を説明する以外にも、自分で選んだ原爆詩を朗読したり、小冊子「平和の祈り」（戦後65年平和事業で製作）に掲載している写真を見ながら、人物の気持ちを考えてもらったり、千羽鶴を使って佐々木禎子さんの話をしたり、講師それぞれに個性あふれる授業となりました。

その中から、本誌へは、小中学校部会リーダー今和香菜さんの原稿とスライドを掲載します。



こんにちは。私は平成21年度に長崎に派遣中学生として行きました、今和香菜です。（アシスタント 自己紹介）今日は「平和のために自分たちができること」を話し合うために授業を進めていきたいと思います。よろしくお願いします!!!



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業



今日のアシスタントを務める川野隆介です。平成18年度、今から9年前に派遣中学生として広島に行ってきました。



同じく、アシスタントを務める郡山琴美です。平成22年度に派遣中学生として広島に行ってきました。



<派遣中学生>

まず“派遣中学生”について説明します。派遣中学生とは、我孫子市の全中学校の各代表者が平和について考えるために、広島や長崎に行って、様々なことを学んでくる中学生です。これから私たちが広島と長崎で学んできたことを聴きつつ、「平和のために自分たちができること」について一人ひとり考えてください。



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業



平和な世の中にするために
自分たちができること

今年は何の年か
知っていますか？

問題

世界のおよそ170カ国のうち、
原爆が落とされたことがある国は
何カ国あるかわかりますか？

- A 1
 B 12
 C 33

<戦争>

今年はあることが終わって70年になりますが、何が終わってかわかりますか？
ちなみに、何月何日が終戦記念日であるか、わかる人いますか？

今年日本が戦争をしないと決めてから、ちょうど70年であり、終戦記念日は8月15日になります。そして同時に広島、長崎に原子爆弾が落とされてから70年になります。(戦後70年ということは、原爆を体験した人はどんなに若くても70歳、戦争を覚えている人となると、80歳以上になっているということです。)

<原子爆弾>

さてみなさん、世界のおよそ170カ国のうち、原爆が落とされたことがある国は何カ国あるかわかりますか？

A 1カ国 B 12カ国 C 33カ国

答えはAです。

日本是世界で唯一の被爆国、つまり原爆が落とされたのは後にも先にも“日本”だけです。

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業



では、広島について説明します。8月6日午前8時15分、世界で初めて投下された原爆、通称リトルボーイが落とされました。爆発の瞬間に、ものすごい温度の上昇とそれに伴う強い風が起き、建物や人はなぎ倒され、燃え上がりました。当時の広島市の人口は約55万人、このうちの12万人の人が亡くなりました。(我孫子市民は約13万)



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

広島に原爆(げんぱく)で亡くなった人
= 約**12**万人(55万人中)

我孫子の人口 = 約**13**万**3,000**人



そして広島に原爆が落ちて、たった3日後の8月9日午前11時2分長崎県長崎市で、二回目の投下、通称ファットマンは落とされました。



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業



「浦上天主堂」/石田寿 長崎原爆資料館所蔵



「平戸小屋町沖の長崎港上空から長崎県庁方面を望む」/H.J.ピーターソン 長崎原爆資料館所蔵

長崎の原爆(げんぱく)で亡くなった人
=約**7万人**(24万人中)

広島・長崎の原爆で亡くなった人
=約**19万人**

爆発したところの地上温度
3000~4000°C

瞬間的にやけどになる温度
80~150°C

鉄が溶ける温度 **1500°C**

威力は広島に落とされたリトルボーイの1.5倍！しかし、長崎は周りが山に囲まれていたので被害は少なかったようです。それでも当時の長崎県の人口約24万人中7万人が亡くなり、広島と併せて約19万人の命を奪われました…。

こんなたくさんの命を奪った原子爆弾は、投下され爆発後、1秒ほどで威力を最大にし、目には見えませんが熱線を放射します。この熱線は非常に高温で、爆発したところの地上では3000°C~4000°Cになったと言われています。瞬間的にやけどになる温度は約80°C~150°C。鉄が溶ける温度1500°Cです。3000°C~4000°Cの熱線がどれだけ高温なのか、数字だけでも明らかです。

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業



突然ですが、この建物が何かわかりますか？これは原爆ドームと呼ばれているものです。

この原爆ドームの近くには広島平和記念資料館があり、原爆によって、焼かれた物がたくさん展示してあります。例えば、焼けた三輪車や炭になった弁当箱、爆風で曲がった扉、があります。

三輪車や弁当箱などをこんなにもしてしまう、原爆の威力はすさまじいですね。みなさんも、資料館に行って自分の目で確かめてほしいです。

焼死した子が乗っていた三輪車



寄贈者／鎌谷 信男



寄贈者／折免シゲコ
炭になった弁当箱



寄贈者／広島県総務部管財課

爆風でまがった扉のよう

第2部 我孫子市の平和事業

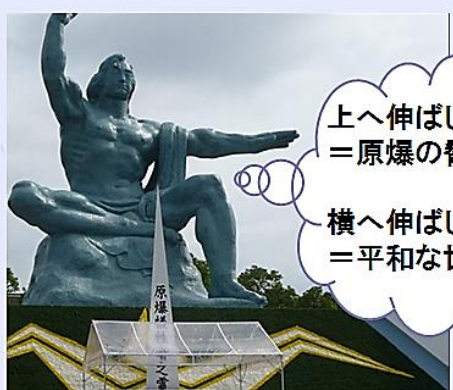
2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

式典に出席

8月9日 長崎平和祈念式



8月6日 広島平和記念式典



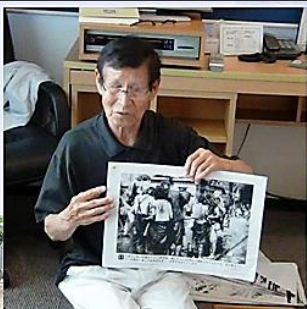
上へ伸ばした手
=原爆の脅威

横へ伸ばした手
=平和な世界

千羽鶴(せんばづる)



被爆された方の 体験に学ぶ



戦争を終えてから、毎年、広島では8月6日、長崎では8月9日に原爆で亡くなった方々のご冥福を祈るとともに、世界の平和を願う式典があります。

今年は70回目を終えました。私は長崎の式典に派遣中学生として出席しました。式典には様々な国の人や被爆を受けた遺族の方、私たちと同世代から、おじいちゃん、おばあちゃんまで、たくさんの方が来ていました。私はここから世の中の中の人の原爆に対する興味、そして平和について関心を持っていることを強く感じました。

長崎にある平和の像の上へ伸ばした手=原爆の脅威・横へ伸ばした手=平和な世界を表しています。この写真は千羽鶴と言われるものです。平和式典では、様々な地域からこのような千羽鶴が贈呈されます。

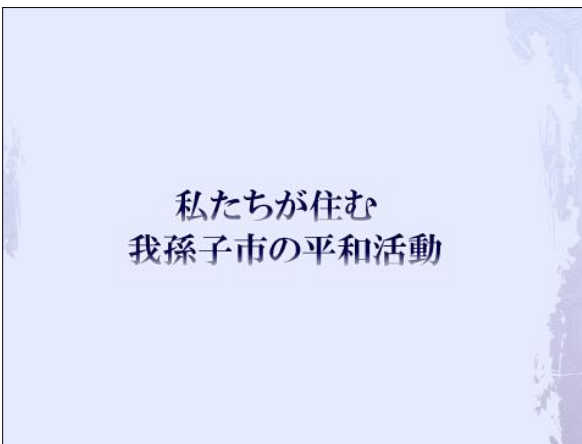
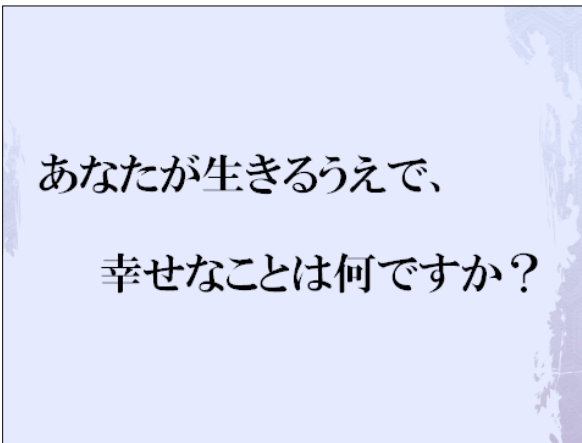
平和式典に加え、派遣中学生の体験の一つとして、被爆者、つまり原爆をその体に受けた方のお話を聞くことができました。

その中でもまだ印象に残っている質問があります。「あなたが生きる上で幸せなことは何ですか？」みなさんも考えてみてください。

この方は…「息ができること」…が幸せだ。とおっしゃっていました。今のみなさんは息ができるのは当たり前だと思いますよね？この方は子供の頃に原爆を受け、自分の皮膚が腐っていく匂いをいまだに忘れられないそうです。

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業



| 我孫子市の平和事業取組み | | ■ 我孫子市平和事業の歩み |
|---------------|-------|---|
| 1970(昭和45)年7月 | - | 市制施行により、我孫子市が誕生 |
| 1985(昭和60)年 | 戦後40年 | 我孫子市平和都市宣言。 手賀沼公園に平和記念碑建立 |
| 2005(平成17)年 | 戦後60年 | 戦後60年事業 我孫子市から初めて市内中学生生徒を広島に派遣。 以後毎年、市内中学生を広島もしくは長崎に派遣 |
| 2008(平成20)年 | 戦後63年 | 我孫子市平和事業推進条例制定 平和を願う市民の参画による平和事業推進市民会議を設置 |
| 2010(平成22)年 | 戦後65年 | 戦後65年事業 |
| 2015(平成27)年 | 戦後70年 | 戦後70年・平和都市宣言30年記念平和事業 |



今も原爆の後遺症を患っていて、呼吸が続く限り原爆の恐ろしさを伝えたいとおっしゃっていました。

私はこの話を聞いて原爆が二度と使われてはいけないものだと強く思いました。

しかし現在も外国の諸国は核兵器を持っています。

もちろん使われないことを祈っていますが、みなさんを始め、世界の人々が戦争について、平和について、どれほど考えるかが、これからの未来を変えようと思っています。みなさんも未来を変える一人なのです。

最後に私たちの住む我孫子市の平和についてです。

<我孫子市>

“我孫子市”は“平和都市宣言”をしており、多くの“平和”活動をしています。この表を見て下さい。これは今までの平和活動の歩みです。1970年、今から45年前に我孫子市が誕生し、1985年に平和都市宣言をします。そして2005年、我孫子市から初めて中学生を派遣します。今年でちょうど10年目ですね。そして今、元派遣中学生、つまり私たちも平和活動をしています。先ほど広島と長崎で行われる式典についても説明しましたが、我孫子市でも、毎年8月に、我孫子市被爆者の会と我孫子市の共催で、手賀沼公園平和記念碑前で平和祈念式典を開催しています。毎年多くの方が集まり、ともに平和と核兵器の廃絶を祈ります。

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

| | |
|---|--|
| <p>平和記念碑</p> <p>1985年、解体が決まった被爆した広島市旧市庁舎の敷石と側壁を我孫子市原爆被爆者の会が譲り受け、我孫子市が手賀沼公園に建立しました。</p>  | <p>平和記念誌の発行</p> <p>戦後60年、65年の事業として、我孫子市民の皆さまの戦争体験や平和への願いを寄稿していただき記念誌として発行しました。戦後70年の本年も発行します。</p>  |
|---|--|

他にも戦争の体験や平和への思いを綴った、記念誌にも力を入れています。こちらは65周年の写真ですが、今年も製作しています。直接伺うことが難しいお話がたくさんあると思いますので、読むことをお勧めします。

戦後70年・平和都市宣言30年記念事業

■ 中学生広島派遣

| | |
|---|--|
|  <p>8月5日けやきプラザ前出発</p> |  <p>ヒロシマ青少年平和の集い</p> |
|---|--|

こちらは今年の8月に広島へ派遣した、みなさんの先輩たちの様子です。8月5日総勢24名の代表者が今年も“平和”について深く学んできました。

ヒロシマ青少年平和の集いに参加し、都道府県を越え、様々な人たちと意見を交換しました。また平和式典に参列し、折鶴を奉納、そして広島市平和記念資料館へ見学と、ここで話すには、時間が足りないくらい、たくさんの経験をしたようです。

| | |
|--|--|
|  <p>8月6日 平和記念式典参列</p> |  <p>折り鶴奉納</p> |
|  <p>広島市平和記念資料館見学</p> |  <p>被爆アオキJ前</p> |

今、私たちは自ら“平和”について考え、行動しています。みなさんができることは何ですか？これからの未来を作っていく私たちは、平和に向けて行動していくことが大切だと思います。身近な例では、友達と喧嘩してしまった時、暴力で解決しようとしていませんか？人を無視したり、仲間はずれにしたりしていませんか？

**平和な世の中にするために
今日から自分たちができる
こと**

葉っぱにメッセージを書いてみよう！

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

授業の感想を書いてみよう！

- 印象に残ったこと
- お兄さん・お姉さんに聞いてみたいこと
- もっと知りたいこと
- 友達に教えたいこと など

今日はありがとうございました

今 和香菜
川野 隆介
郡山 琴美

“戦争”という言葉を知ると、つい大きな規模で考えてしまいますが、私たちの周りで起きている、小さな“戦争”はあります。それが大きくなればなるほど、相手を傷つけ、自分も傷つきます。一番平和的な解決方法を考えるのも私たちができることのひとつです。

また、新聞やニュースで世界のことを知る、戦争や紛争について学ぶこと、そしてもちろん今私たちの話を聞いていることもそうです。興味や関心を持って考え、学ぶことも平和につながる一歩です。

◆ “平和の木”

授業を受けた6年生の皆さんには、葉っぱの形をしたメッセージカードに、「平和な世の中にするために今日から自分たちができること」を書いてもらいました。集めた葉っぱは、模造紙に描いた“平和の木”に貼って、後日、学校に持っていきました。



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

◆ 実施実績一覧 (◎…講師、無印…アシスタント、【母校】…実施校出身者)

| 実施日 | 実施校 (クラス数・人数) | 講師名 (派遣年度・派遣先) 出身中学校名 |
|-------------------|------------------------|---|
| H27. 6. 20 (土) | 我孫子第一小学校 (3クラス・90人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎今和香菜 (H21・長崎) 湖北中 大塚雅己 (H20・広島) 白山中 小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎大屋貴義 (H21・長崎) 白山中【母校】 今井瑞萌 (H17・広島) 湖北中 木村友美 (H17・広島) 我孫子中 濱原沙也佳 (H24・長崎) 我孫子中</p> <p>➤ 6年3組</p> <p>◎柵木緑 (H23・広島) 布佐中 川合瑞季 (H24・長崎) 白山中 山口悦輝 (H25・広島) 湖北台中 竹内梨紗 (H27・広島) 布佐中</p> |
| H27. 9. 9 (水) | 布佐南小学校 (1クラス・26人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎大塚雅己 (H20年・広島) 白山中 大屋貴義 (H21年・長崎) 白山中 郡山琴美 (H22年・広島) 白山中</p> |
| H27. 9. 19 (土) | 高野山小学校 (4クラス・128人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎郡山琴美 (H22・広島) 白山中 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 竹尾麻耶 (H26・広島) 我孫子中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎川野隆介 (H18・広島) 布佐中 濱原沙也佳 (H24・長崎) 我孫子中 清水嶺 (H27・広島) 湖北中</p> <p>➤ 6年3組</p> <p>◎川合瑞季 (H24・長崎) 白山中 柵木緑 (H23・広島) 布佐中 大類加奈子 (H25・広島) 布佐中</p> <p>➤ 6年4組</p> <p>◎小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中 橋本小都美 (H26・広島) 白山中</p> |

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

| | | |
|----------------------------|---------------------------------|---|
| <p>H27. 10. 5 (月)</p> | <p>布佐小学校 (2クラス・46人)</p> | <p>➤ 6年1組 ◎柵木緑 (H23・広島) 布佐中【母校】 橋本雅拓 (H23・広島) 白山中 ➤ 6年2組 ◎川野隆介 (H18・広島) 布佐中【母校】 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中</p> |
| <p>H27. 10. 24 (土)</p> | <p>我孫子第四小学校 (4クラス・119人)</p> | <p>➤ 6年1組 ◎郡山琴美 (H22・広島) 白山中 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 川合瑞季 (H24・長崎) 白山中【母校】 ➤ 6年2組 ◎川野隆介 (H18・広島) 布佐中 濱原沙也佳 (H24・長崎) 我孫子中 早坂旭慈 (H27・広島) 湖北中 ➤ 6年3組 ◎大塚雅己 (H20・広島) 白山中【母校】 高橋彬 (H22・広島) 湖北中 小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中 ➤ 6年4組 ◎橋本雅拓 (H23・広島) 白山中 今和香菜 (H21・長崎) 湖北中 柵木緑 (H23・広島) 布佐中</p> |
| <p>H27. 10. 24 (土)</p> | <p>根戸小学校 (6クラス・216人)</p> | <p>➤ 6年1組 ◎大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 郡山琴美 (H22・広島) 白山中 高橋彬 (H22・広島) 湖北中 川合瑞季 (H24・長崎) 白山中 ➤ 6年2組 ◎今和香菜 (H21・長崎) 湖北中 川野隆介 (H18・広島) 布佐中 柵木緑 (H23・広島) 布佐中 ➤ 6年3組 ◎小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中 大塚雅己 (H20・広島) 白山中 橋本雅拓 (H23・広島) 白山中 早坂旭慈 (H27・広島) 湖北中</p> |

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

| | | |
|--------------------|-----------------------|---|
| | | <p>➤ 6年4組</p> <p>◎大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 郡山琴美 (H22・広島) 白山中 高橋彬 (H22・広島) 湖北中 川合瑞季 (H24・長崎) 白山中</p> <p>➤ 6年5組</p> <p>◎柵木緑 (H23・広島) 布佐中 川野隆介 (H18・広島) 布佐中 今和香菜 (H21・長崎) 湖北中</p> <p>➤ 6年6組</p> <p>◎橋本雅拓 (H23・広島) 白山中 大塚雅己 (H20・広島) 白山中 小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中 早坂旭慈 (H27・広島) 湖北中</p> |
| H27. 11. 7 (土) | 湖北小学校 (2クラス・56人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎今和香菜 (H21・長崎) 湖北中【母校】 川野隆介 (H18・広島) 布佐中 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 橋本小都美 (H26・広島) 白山中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎郡山琴美 (H22・広島) 白山中 高橋彬 (H22・広島) 湖北中 小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中 清水嶺 (H27・広島) 湖北中</p> |
| H27. 11. 13 (金) | 湖北台西小学校 (2クラス・60人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中【母校】 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎川野隆介 (H18・広島) 布佐中 今和香菜 (H21・長崎) 湖北中</p> |
| H27. 11. 21 (土) | 新木小学校 (3クラス・113人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎高橋彬 (H22・広島) 湖北中【母校】 郡山琴美 (H22・広島) 白山中 濱原沙也佳 (H24・長崎) 我孫子中 橋本小都美 (H26・広島) 白山中</p> <p>➤ 6年2組</p> |

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

| | | |
|--------------------|-------------------------|---|
| | | <p>◎大塚雅己 (H20・広島) 白山中 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 古橋萌々香 (H26・広島) 湖北中【母校】 須藤慈英 (H27・広島) 湖北中【母校】</p> <p>➤ 6年3組</p> <p>◎川合瑞季 (H24・長崎) 白山中 川野隆介 (H18・広島) 布佐中 今和香菜 (H21・長崎) 湖北中 早坂旭慈 (H27・広島) 湖北中【母校】 柴田光音 (H27・広島) 湖北中</p> |
| H27. 12. 17 (木) | 我孫子第二小学校 (3クラス・82人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中 川合瑞季 (H24・長崎) 白山中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎井上潤 (H20・広島) 我孫子中 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中</p> <p>➤ 6年3組</p> <p>◎濱原沙也佳 (H24・長崎) 我孫子中 郡山琴美 (H22・広島) 白山中</p> |
| H28. 2. 12 (金) | 並木小学校 (2クラス・85人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎郡山琴美 (H22・広島) 白山中【母校】 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 高橋彬 (H22・広島) 湖北中 柵木緑 (H23・広島) 布佐中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎小谷典子 (H24・長崎) 湖北台中 川野隆介 (H18・広島) 布佐中 今和香菜 (H21・長崎) 湖北中</p> |
| H28. 2. 15 (月) | 我孫子第三小学校 (4クラス・134人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 高橋彬 (H22・広島) 湖北中 柵木緑 (H23・広島) 布佐中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎高橋彬 (H22・広島) 湖北中 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 柵木緑 (H23・広島) 布佐中</p> |

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

| | | |
|-------------------|-----------------------|---|
| | | <p>➤ 6年3組</p> <p>◎今和香菜 (H21・長崎) 湖北中 川野隆介 (H18・広島) 布佐中 郡山琴美 (H22・広島) 白山中</p> <p>➤ 6年4組</p> <p>◎郡山琴美 (H22・広島) 白山中 川野隆介 (H18・広島) 布佐中 今和香菜 (H21・長崎) 湖北中</p> |
| H28. 2. 15 (月) | 湖北台東小学校 (2クラス・48人) | <p>➤ 6年1組</p> <p>◎柵木緑 (H23・広島) 布佐中 大屋貴義 (H21・長崎) 白山中 高橋彬 (H22・広島) 湖北中</p> <p>➤ 6年2組</p> <p>◎川野隆介 (H18・広島) 布佐中 今和香菜 (H21・長崎) 湖北中 郡山琴美 (H22・広島) 白山中</p> |

◆ リレー講座を実施して… ～講師それぞれの感想～

平成21年度長崎派遣 今和香菜 (小中学校関連部会リーダー)

リレー講座を行って、強く感じたことは“伝えること、行動することの大切さ”です。派遣中学生として貴重な体験をさせて頂いた私は当時学んだことや、現在思うことを小学生に伝え、短い時間の中で「平和な世の中にするために自分たちができること」について話し合いを行いました。十数年しか生きていないのにも関わらず、大人顔負けの考えが溢れるほど出てくることに驚きました。戦後七十周年を迎え、戦争の愚かさや原子爆弾の恐ろしさを伝えてくださる方々が少なくなる中、その方々から受け取った“平和”というバトンを私たちが後世に伝え、二度と同じ過ちを起さぬようにしなければならないと改めて思いました。未来を担っていく私たちだからこそ、歴史に学び、行動することが大切だと思います。



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

平成17年度広島派遣 今井 瑞萌

戦後60年の平和事業の一環として、私自身が広島へと派遣されてから早いもので10年が経ちました。その頃から市の事業に参加させていただいておりましたが、派遣中学生の後輩たちの想いを、未来を生きる子どもたちに伝えられる機会を設けられる様になるということは、当時の私には考えられませんでした。各小学校において、より歳の近い先輩が想いを語るということは、なかなか現代の生活の中で考える機会の少なくなってしまう「戦争」・「核兵器」・「平和」について考えるきっかけとなったことでしょう。未来を生きる子供たちはもちろん、私自身も当時の記憶を呼び起こし、今後とも「平和」の輪を伝えていきたいと思います。



平成17年度広島派遣 木村 友美

リレー講座を通じて最も印象に残ったのは、本企画に参加した歴代派遣中学生達の真摯さである。講座準備に参加するまでは、イマドキな現役の学生と共に取り組むことに対し、漠然とした不安があった。この不安は授業準備を拝見するや否や払拭された。セリフや話し方、スライドに試行錯誤し、周囲のアドバイスに耳を傾け、ときに真剣に意見をぶつけ合う様子に心打たれたことは鮮やかに記憶に残っている。派遣中学生との交流は、社会人1年目の忙しい日々に爽やかな風を吹き込んでくれた。非常に残念なことに、授業には一度しか参加できず、また講師を務めることは叶わなかった。来年度は、是非都合がつく限り携わりたいと思う。



平成18年度広島派遣 川野 隆介

私がリレー講座に参加しようと思った理由は小学生に平和について考えるきっかけを与えたいと思ったからです。普段、接することのない小学生にどんな内容を伝えれば良いのか、どのように授業を作れば良いかを講師、皆で考えました。授業をやってみて感じたことは自分たちにとっても平和について考えるきっかけになったということです。



自分たちの経験を振り返ることで、自分たちも改めて平和とは何なのかを考えることができました。私はリレー講座に参加して講師として生徒に伝えることばかりを考えていましたが、実際には生徒の感想から学ぶことが多くありました。このリレー講座の場は生徒だけでなく講師にとっても成長の場でした。参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

平成20年度広島派遣 井上潤

今回のリレー講座を通して、自分自身が戦争を伝えていくことの意味を強く感じました。戦後70年、実体験として戦争を語れる方は少なくなってきました。中学生の頃、広島に行って学んできたことを伝える機会が頂けて本当に良かったです。授業の一時間の中で伝えられることには限りがありました。それでも今回のリ



レー講座を聞いた小学生がバトンをつなげていくため、戦争について考える第一歩になってくれればという思いで授業をしました。災害とは違い戦争は伝えていくことで防ぐことができます。世界情勢も国の方針も読めない現代、自分のこととして戦争を考えていくことが必要だと思います。今、私は小学校の教員を目指しています。これからは教員として子供達につなげていきたいです。

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

平成20年度広島派遣 大塚 雅己

今回リレー講座に参加してみて、改めて平和の大切さを実感しました。いま戦争を経験した方々の高齢化が問題となっていて、戦争の恐ろしさを伝える人が少なくなっているといわれています。私たち派遣中学生も実際に戦争を体験したわけではありません。そのため初回の授業では小学生に果たして戦争の恐ろしさを自分が伝えることができるのだろうかと不安でした。しかし、授業の中でなぜ戦争をしてはいけないのかという質問をすると予想以上に多くの子供が自分なりの考えを持っていました。なので、互いに戦争を経験していない中で戦争について考えるという授業でしたが、かなり内容の濃いものとなったと思います。



派遣中学生では戦争の恐ろしさを五感で感じてきました。だからこそ実際に戦争を経験はしていないけれど戦争の恐ろしさを伝える責任があると今回の講座で強く感じました。

平成21年度広島派遣 大屋 貴義

この平和事業は、元派遣中学生である私達が小学生に対して、平和とは何か？を語りかけることが主な活動でした。そういったこともあり、今回の事業を通して私は「何を伝えるべきか」ということを常に考えてきました。派遣中学生として活動していたとはいえ、平和について深く考えてきたことはあまりなかったからです。この事業は私自身の考えを整理する良い機会にもなりました。また、小学生に授業をするということも滅多にできない経験でした。戦争の恐ろしさや平和の大切さ、そして私達の考え。不慣れな先生役でしたが、そのことを少しは伝えることが出来たのではないかと考えています。この事業が生徒にとって、平和・戦争について考えるきっかけになってくれれば良いな、と思っています。



平成22年度広島派遣 郡山 琴美

私は、このリレー講座で自身の広島派遣をもとに、子供たちと一緒に過去の戦争を振り返り、未来の平和を考えるととても貴重な経験をさせていただきました。最初は、小学生を目の前によく授業ができるのか、

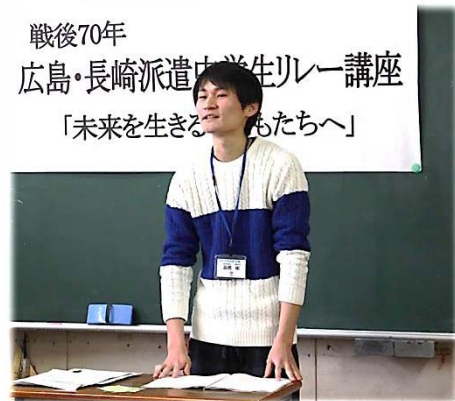
思いを伝えられるのか不安でしたが、真剣に話を聞く姿や平和について考える姿が見受けられ、とてもやりがいを感じています。授業後の生徒の感想からも「家に帰ったら祖父母に戦争の話を聞いてみようと思う。」との声があり、この授業をきっかけにさらに人から人へ繋いでいくことができたなら幸いです。今後も、このような取り組みを継続していきたいと思っています。



平成22年度広島派遣 高橋 彬

リレー講座の講師をして小学生のみなさんによりよく伝わるように勉強して原稿やスライドを作ることはとても大変でした。しかし、授業を終えてみなさんの感想や授業のメモ、図を写したりしているのを見て、ほっと安心したのと同時にやってよかったと心底思いました。僕はこの講座を通して、いま多くの方が忘れかけている記憶、戦争の記憶を多くの人に伝えていくと同時に、悲惨さ、繰り返してはいけないという思い、平和な世の中にするにはどうしたらいいかを考えるということを後の世代につないでいくことができればいいなという思いで講師をしています。

全力で授業をして、『あの人なんか熱心に語っていたなあ』とでも記憶に残りそこから戦争のことを学んでいってくれる人増えるよう頑張りたいと思います。



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

平成23年度広島派遣 橋本 雅拓

今年一年間、平和記念事業として小学校での授業に携わってきて感じたのは、「世代」についてです。

僕は中学2年生の頃、広島に派遣中学生として行きました。そこで学んだことは原爆の恐ろしさもそうですが、なによりも「原爆の恐ろしさを伝えることの大切さ」であったのだと今では思います。広島で被爆者の方から聞いた二度と起こしてはいけない悲惨な体験。僕はそれを聞いて原爆を絶対に使ってはいけないと強く感じました。それは多分、一緒に派遣された仲間たちや、被爆者の方の話聞いたことのある人も同じのはずです。ならば、これからの社会を作る僕たちの世代の人々にこの話を広め、原爆を使わないような動きを創っていきたいです。また、僕たちの前の世代がそうしてくれたように次の世代を担う者たちへこの話を引き継いでいきたいと思いました。



平成23年度広島派遣 柵木 緑

忘れもしない東日本大震災の年に母の母国であるフィリピンで半年生活していたことがあります。その為私は震災を経験していません。しかし日本に戻った年、派遣中学生として広島を訪れたときには、原発事故は原子爆弾が落とされた歴史を繰り返してしまったこと、原子力への怒りを感じたことを鮮明に覚えています。

フィリピンで見た貧富の格差という現実と広島で学んだ戦争・核の悲劇、この2つの体験から世界中の人々が最低限度の生活を送れることが平和であると考えるようになりました。小学生の子達にも戦争だけでなく世界が抱える様々な問題を含め、平和を自身で頭と心で考えてもらいたいと思いこの活動を行ってきました。小学生にバトンが繋がり、この活動が平和に一步でも近づくと確信しています。今後も継続, 拡大させていきたいと思います。



平成24年度長崎派遣 川合 瑞季

私はリレー講座を通して伝えることの大切さを学びました。小学生に原爆が落とされたことのある国は何か国ですか？と質問すると1ヶ国と答えられない子供たちがたくさんいました。知ってて当たり前、と思ってることが当たり前でなかった、と授業を通して痛感しました。私は毎回担当したクラスで焼き場に立つ少年の写真を使ってグループワークをして、意見交換をしてもらいました。かわいそう、自分だったら耐えきれない、といった多くの子供たち意見を通して、戦争を経験してない私達が次の世代へと語り継ぐ使命を感じました。また、講師という立場になるのも初めてだったのでとても貴重な体験となりました。この事業に参加できたことを誇りに思います。



平成24年度長崎派遣 小谷 典子

中学生の頃に長崎派遣へ行き、この足もとで誰か亡くなったのかもしれない。と時々思いながら、厳かで静かな祈りが続く、我孫子と違う空気にふれました。私は小学生にぜひその空気感を伝えたいと思い、当時被ばくした小学生の詩の朗読と復興した街並みの夜景を紹介することに決めました。



初めて講師として授業をし、クラスの子ども達の丁寧な感想の中に詩の朗読の反響が予想以上にあり、子ども達の心に何か残せた事がとても嬉しかったです。

実は初めて講師の連絡をもらった時、私に務まるはずが無い！と、思わずできませんと返信の文を打ったほどに自信がありませんでした。しかし、今ではリレー講座は大きな自信になっています。あの連絡にやります、と返信した私を褒めてあげたいです。

第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

平成24年度長崎派遣 濱原 沙也佳

高校生の自分が五歳しか離れていない小学生達に平和についての授業を行い、自分の気持ちを言葉にして伝える。

初めての経験に緊張と不安が隠せなかったけれど、無事授業を終えることで安心と楽しさを感じました。現地で学んだことを思い出しながら再び戦争について学ぶことや、これから戦争について伝えられる人が少なくなる中で平和のために自分に何ができるのか、改めて考えを深めることができました。まずは身の回りの平和から。講師にも生徒達にもプラスになるこの事業をこれからも受け継いで、少しでも平和な世界に近づけていけるといいと思いました。いろんな年代の方と交流できたのも素晴らしい社会経験となりました。



平成25年度広島派遣 大類 加奈子

私は3年前に広島へ行き、多くを学びました。実際に広島で見聞きしたことは、これからは担う私たちだからこそ知らなくてはいけないことだと強く感じました。

リレー講座では、私たちの経験をより多くの人に伝える絶好のチャンスだと思います。ある学校の小学生が、「私も派遣中学生になりたい」と言ってくれたのを聞いてとても嬉しかったです。戦争を知ろうとするきっかけをもってもらうことが大事なのだと思います。

リレー講座を行う側の私たちも戦争は経験していません。しかし、そんな私たちだからこそ、私たちが考え、戦争を2度と繰り返さないように伝えることが大切なのだと思います。これからも1人でも多くの人に平和の輪を広げていけるよう、活動できたらと思います。



平成26年度広島派遣 竹尾 麻耶

私は今回のリレー講座に参加して、小学生の皆さんが戦争について考えるお手伝いをする事ができてとても嬉しく思っています。

また、私は今回アシスタントとして参加させていただく中で、私自身の広島派遣中学生としての経験を小学生の皆さんと一緒に考えるという形で活かす事ができて良かったです。

そして、リレー講座が小学生の皆さんが戦争や平和についてじっくり考えるきっかけになればいいと思います。

また参加したいです。ありがとうございました。



平成26年度広島派遣 橋本 小都美

リレー講座でアシスタントをさせていただきました。平和にするために自分ができること、という私にとっても難しい質問を、小学生たちが「自分たちの目指せる平和ってなんだろう」と一生懸命考えていました。そんな姿を見て感動と同時に、平和の大切さについて考えてもらえるきっかけになってうれしく思いました。

これからも、「平和の大切さやあたりまえの日常のありがたさ」を、一人でも多くの人と共有できるように、広島で見て学んできたこと、感じたことを伝えていきたいと思っています。そして、世界中に平和が広がる日がくることを願っています。



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

平成26年度広島派遣 古橋 萌々香

私は今回のリレー講座をやってみて、「戦争の悲劇」を伝えることの重要性、大変さを学ぶことができました。

自分が実際、見たり、聞いたりしたことをわかりやすく伝えるにはどうすればよいかなどを考えさせられました。

また、これから戦争を実際に体験した人の話を聞くことが難しくなっていく中で、私たちが戦争を体験した人達の「二度と繰り返してはいけない。」という想いをどう受け継いでいくかということも考えさせられました。

この「リレー講座」を通して、体験した人達から私達へ、私達から講座を受けた小学生、そして小学生から小学生の家族や近所の人達へ、戦争に対するそれぞれの想いを伝えていければ良いと思います。それが日本だけでなく、世界中に広がれば、戦争は少しずつ減っていくのではないかと思います。

「未来を生きる子どもたちへ



平成27年度広島派遣 柴田 光音

私は、今回のリレー講座をやってみて学べたことがたくさんありました。今まで広島や長崎に派遣中学生として行ってきた方たち、それぞれの学んできたことや平和についての考えをきけて、自分の考えとは違うことをたくさんまなぶことができました。

また、小学生と一緒に平和を考えたり、うまく言葉にできない子にアドバイスしたりと、自分も学びながら教えてあげることもできたと思います。思ったより、戦争のことをよく知っている子がいたり、質問をされたときにたくさんの子が手をあげたりしてくれて、発表もたくさんしてくれたし、一人一人違う意見を出してくれて、とても勉強になったし、やりがいがありました。これからも今回のような、戦争や平和について伝える機会があればと思います。



平成27年度広島派遣 清水 嶺

僕は今回リレー講座に参加させていただき、自分よりも後の世代に伝える大切さや難しさを改めて感じました。

戦後70年がたった今、実際に戦争を体験した人たちはほとんどいません。これからは、資料でしか戦争を知ることはできなくなります。なので、自分たちがより詳しく、具体的な事を語り継いでいきます。しかし、自分よりも下級生の人たちに戦争を伝えていくのは、とても難しかったです。戦争でどのようなことが起きたのかを正確に伝えるためには、まず自分が理解し、それをわかりやすく説明できなければなりません。そのため、これからさらに勉強し、多くの人に自分が感じたこと・考えたこと、皆さんに考えてほしいことを伝えていき、「戦争を知って同じことを繰り返さない」ということにつなげていきたいです。



平成27年度広島派遣 須藤 慈英

私は戦後70年平和事業「リレー講座」に講師のアシスタントとして参加しました。

講師の人がスライドショーなどで、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える授業をし、アシスタントは子供たちが自分たちに何ができるかを話し合う際の手伝いをしました。

子供たちは初め、平和の有り難さをあまり分かっていない様子でしたが、話し合いが進むにつれて今のような平和があたり前ではないということに気付いてくれたようでした。子供たちからは「友達と仲良くする」や「外国についてもっと知る」などの意見が出ました。

私は今回のアシスタントの役割を通して広島派遣のときに、見たり、感じたことを、自分の中だけに留めておくのではなく、1人でも多くの人に伝えていくことが、平和の尊さを次の世代に伝えていくために大切だと思いました。



第2部 我孫子市の平和事業

2. 戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念平和事業

平成27年度広島派遣 竹内 梨紗

私は小学生へのリレー講座に参加させていただき、感じたことがあります。

小学生の皆さんも、私も、戦争や原爆を実際に体験した訳ではありません。ですが、私は実際にヒロシマを学びました。私が学んできたこと、感じたことはたくさんあります。中でも一番伝えたかったのは、一人ひとりが平和に向けて、何か行動しなければならない、ということです。小学生の話し合いや発表を手伝い、小学生の力も平和のためになってほしいと思います。

私は、これからもヒロシマのこと、平和のことを伝えていきます。



平成27年度広島派遣 早坂 旭慈

私はこのリレー講座を通して、小学生達に自分が平和について広島で学んだことや、感じたことを伝えられて光栄だと思いますし、とてもよい経験になりました。

広島・長崎に落ちた原子爆弾のせいで、たくさんの命が奪われ、生き残る人々の生活も苦しんでいたことを小学生達や自分の世代にも伝えられてよかったです。そして、国と国のけんかは戦争になり、自分の兄弟や友達とのけんかも戦争になります。だから、戦争しないように唯一できることは、相手の立場になって、考えて、思いやりの心を持つことが大切だと私は思います。

私の考えを小学生達に伝えることができてうれしいです。

小学生達がリレー講座で平和について学んだことを忘れずに、今後の日常生活にいかしていくことを願います。

